

## 第2回 第3次清瀬市民地域福祉活動計画策定委員会

### 《会議概略》

日時 平成27年6月22日（月）15時～17時

場所 清瀬けやきホール 会議室3

出席 赤川都 内山勇 大久保由里 小川和夫 小俣みどり 小山利臣 兼田則子  
木下八重 近藤優美 佐竹治男 田上明 菱沼幹男 丸山安三

欠席 岩崎雅美 麦倉稔

事務局 森原弘成 土金百合子 波澄守 星野孝彦 富田千秋

### 1. 開会

社会福祉協議会事務局長より

### 2. あいさつ

社会福祉協議会会長より

### 3. 委員及び新任職員の紹介

(1) 第1回委員会欠席委員の紹介 小山利臣委員

(2) 事務局 富田千秋職員

### 4. 第1回清瀬市民地域福祉活動計画の概要について

★ 資料番号1「第1回清瀬市民地域福祉活動計画策定委員会概要（案）」の議事録内容について説明

訂正や意見がないかを諮ったところ、異議なく了承される。

### 5. 第2次地域福祉活動計画の評価について

★ 資料番号4「評価票」に基づき説明

委員 目標達成度は、計画直後に評価したものか現時点でのものなのか。

事務局 現時点で評価したもの。

委員 項目数が多く、評価するのが難しい。1枚目の下の方の項目は1が並んでいるが、問題はなかったのか。重要度が低い項目であれば重視しなくていいのかもしれないが、重要性のある項目であれば、今回の計画でも改善していく方向性を示していく必要がある。いずれにせよ、評価の仕方に迷う。

委員 答えになっているか分からないが、重点目標では①小地域福祉活動の推進②地域ネットワークの構築が掲げられていた。これら総体としてどこまで進められたかと言い難い面がある。取り組みが進んだ地域・分野もあれば進められなかったところもある。この重点目標を評価票の項目に当てはめていく

と「地域活動や自治会活動に参加する」「地域懇談会などの集まりに参加し、地域の課題や解決策について考え意見を言う」「ご近所同士で声を掛け合ったり見守り活動に参加する」などといった項目が該当してくるだろう。②地域ネットワークの構築については「活動団体の中でネットワークを構築する」「ボランティア市民活動交流会の実施」「要援護者対策の連携」「地域ネットワークの構築と活動支援」「イベント企画・実行に向けた関係機関との連携促進」などといった項目が該当してくるだろう。

重要度が低いと言えるか分からないが、国際交流の場づくりなど社協が取り組んでいなくても地域全体では進んでいるということもある。

委員長 評価の中からあぶりだされてくる課題もあるだろうが、第3回策定委員会のニーズ調査をまとめていくという段階で再度検討することとしたい。

## 6. 地域懇談会の実施方法について

★ 資料番号2「地域懇談会の実施方法について」 資料番号6「地域ニーズ把握方法に関する意見書」 資料番号7「職員の関わりについて」に基づき説明

委員 資料番号2と資料番号7では、7月25日の懇談会の開催場所が一致していない。どちらが正しいのか。

事務局 資料番号7の訂正をお願いしたい。生涯学習センターとあるのを清瀬けやきホールに訂正する。

委員 広報はどのように行う考えか。

事務局 7月1日市報、社協だより、ホームページに掲載する。他に小学校を經由して保護者に配布依頼していく。また、自治会はアンケート調査対象でもあるが、懇談会にもかかわってもらって、円卓会議や既存会議との繋がり作りになるようにしていきたい。

委員 幅広い年齢層からの参加を求めた場合、夏休みに入っているので子どもがいる親世代の参加が難しいのではないか。

事務局 日程については、広報に時間をかけていくために対象の考え方について、指摘の部分があるかと思う。

委員 介護者や子育ての関係で、来られないという人たちは、こちらから聞きに行くという姿勢も大事ではないか。

副委員長 広報活動は、口コミで広がるのが一番大事。自治会やボランティア、民生委員などへ直接趣旨を説明し、広めてもらうのがよい。それぞれのネットワークで広がる。

委員 支援を必要としている人が参加しやすい工夫をしてほしい。ショートステイの利用や託児を広げていくことができないだろうか。

事務局 ショートステイの利用は困難。託児について全ての会場でできるかは何とも言えない。

副委員長 たとえば子育て中の人で来られない人には、事前に意見を聞いておいて、

当日、当事者の代弁をしてくれる人が来てもらうとよい。また、考えを聞くだけでなく、清瀬の現状（高齢化率 生活保護世帯の多さ 自治会加入率の低下）などについて参加者に伝えていくという視点も必要。

委員 地域懇談会の場所について信愛など社会福祉施設を借りるのもよいのでは。  
委員 信愛のふれあいホールを使ってももらうこともできる。事務局案では野塩・梅園というくくりになっているが、新たに場を設けることで参加しやすくなる人もいる。

委員 前は5回で105人の参加。今回は7回で参加しやすくなるとも思うが、広報をかなり工夫しないと参加者も得られない。多くの声が聞ける努力をしてほしい。人が集まる工夫として、前段に講演を入れるなど呼び水的な何かがあってもよいのでは。

委員 せっかく来てくれた人と、懇談会後も繋がりを保つような工夫も必要。アンケートで連絡先の記入を求めても良い。

事務局 そのように考えている。

委員 平日の日中開催だと仕事をしている人は出られない。

事務局 完全ではないかと思うが、土曜日開催することでカバーしたい。

副委員長 地域活動を進める上では、日中活動が中心となる。平日に活動ができる方がリーダー的な存在となって活動が進む。スタートとしては、平日昼間でよいのでは。大切なのは、地域のリーダー的な存在にしっかり声をかけていくこと。

この地域懇談会では、地区社協を作るという大きな枠組みは示し、何のための懇談会かを示した方がよい。今回の地域懇談会では、地域の課題に気付くことが第一。それを話し合っ、どんなものがあれば解決できるだろうかと考えていく流れにするとよいと思う。

委員長 多くの方に集まってもらうためには、皆さんのお知恵と人脈を活かしてできればと思う。

委員 施設の人にも入ってもらってよいのではないか。

委員 集まりをしたとき、参加するとこんな良いことがあるということが伝わりと参加するのでは。誰かに伝えたいということを探している人が「ここに行く福祉の人に伝わるんだよ」といったように参加する人がメリットとを感じるようなキャッチコピーを入れてはどうか。

委員 一つのまちの懇談会が1回ずつしかない。実際に三小には梅園も竹丘の人もいる。参加者の都合もあるので、一つの地域を2か所くらいずつ入れるなど対象地域をぼやかしたらどうか。

事務局 市報では地域など細かく広報できない。あまり限定し過ぎない方がいいと考えている。

委員 開催場所がどこにあるか行き方をはっきり示し、どこに行くかは行く人が選べばいいと思う。

副委員長 懇談会のやり方としては課題だけを出し合うのではなく、地域でこんなこと

ができるといいなと思うアイデアなども出してもらって、元気になって帰ってもらいたい。そうすると時間が目いっぱいになるだろうが、KJ法を使うにしても各グループから発表をするのではなく模造紙を見て回る時間を入れることで発表の時間に変えられる。

委員長 出された意見を活かし、改めることが間に合うようなものがあれば、努力してもらいたい。

## 7. アンケート調査の実施方法について

★ 資料番号3「アンケート調査の方法」 資料番号7「職員の関わりについて」 に基づき説明

委員 当事者アンケート5の設問で、サービス利用や地域活動との関わりの有無を聞く意味はなんだろうか。使っているサービスから何かを分析していく考えか。

事務局 福祉サービス利用の有無だけでは地域との接点の度合いが浮かんでこないと考え、この設問を設定した。

副委員長 そうした設問よりも、居住歴を入れてはどうか。暮らしている年数が少ない人ほど、地域交流がないというデータも出る傾向にある。

委員 アンケート項目が対象者ごとに違っていると、集計作業が大変ではないか。設問のばらつきをどう評価していくか。

事務局 元々は関係者向けに1種類のアンケートをと考えていたが、当事者などへと幅を拡げていく中で、統一の設問では無理があると考えた。団体に属している人と個人では、聞き方も変わってくる面がある。

数量的な傾向も把握したいと思うが、対象者の選び方でその傾向や出される意見が変わるという意見を委員への事前アンケートでもいただいたが、その通りと考えている。回答が多いからこうだと結論付けるのではなく、多様な意見を引き出すために項目を分けて考えた。

委員 A-5に福祉サービスを利用したことがあるかないか入れてみてはどうか。

事務局 当事者のカテゴリーは多様で、子育て世代や外国人なども含まれるため、全ての人に馴染まない部分が出てくる。

委員 アンケート結果を計画作りに生かすのであれば、もう少し大まかな項目にしてもよいのではないか。不安なことを探る設問として、経済面のこと、一人暮らしであることくらいの選択肢で良いように思う。小地域での取り組みが必要と考えるのであれば、それにつながる項目にしたほうがよい。

副委員長 孤立の問題を取り上げていくのであれば、別の町の調査では「1週間に何人の人と食事をしたか」という社会関係を問う項目からニーズを把握した。生活ニーズについて把握するような項目であれば、行政が策定した計画でニーズ把握をしているので、それを活かしてもよいだろう。

委員 調査票について、当事者と一般市民が同じものでもよいが、一般市民には、地域で気になることや協力できることの項目を入れてもよいのではないか。

- 委員 アンケート調査票に社協の連絡先を入れてはどうか。関心のある人が社協につながってくるきっかけになるかもしれない。
- 委員 住んでいる地域を聞くと、地域の問題の傾向がわかるようにも思う。
- 委員 地域福祉活動計画は地域で暮らす方の豊かな社会生活のための計画。社会的な役割がどうなっているのかという実態も聞いてほしい。
- 委員 当事者アンケートでは、どんな立場の方が答えたかがわかるように工夫したほうがよい。
- 委員 外国人の方が一番不安なのは、言葉がわからないこと。それを問うことができるのと良い。言葉が話せない、わからないことがどんな不便につながるのか。学校で周りの保護者とコミュニケーションが取れない、学校で配布されるプリントの内容がわからないなどの不便がある。他にも、言葉がわからないために夫婦間で DV が起きたり、DV が起きた時に助けを求められるかどうかも分からない。
- 委員 当事者アンケートには英語版があってもよいのではないか。説明をしながら答えてもらうのであれば本音が出ないのではないか。
- 委員 清瀬にいる外国人は、中国語の方が一番多い。他、英語、韓国語、やさしい日本語があればよいが、それを作るにはかなりの労力がある。
- 副委員長 そうであれば国籍がわかるだけでも良いかもしれない。
- 委員 大変と感じていることの設問として、情報入手、人とのコミュニケーションという項目を入れてもいいだろう。
- 委員 一緒に住んでいる人数を聞いた項目があるが、家族ではなく他人同士の二人という数字の場合もある。家族構成を聞いたほうがよいように思う。
- 委員 子どもにも、どんなお手伝いができるのかを聞いてほしい。6年生であればしっかり考えられる。赤ちゃんの力プロジェクトで、小学6年生からこんな赤ちゃんに虐待してかわいそうという意見も出ていた。
- 委員長 この時間の中では、すべての意見を集約するのが難しい。前回の委員会時と同じように、ここで出し切れなかった考えについて、期限を設けて集約する形を取りたい。事務局としては、どれくらいまでの期間であれば受け付けられるだろうか。
- 事務局 今後のスケジュールを考えると、6月29日（月）までをお願いしたい。
- 委員長 それでは、委員の皆さんは6月29日までに事務局あてに意見を出してほしい。寄せていただいた意見について、委員長・副委員長・事務局預かりで詰めさせていただくという方法でどうでしょうか。
- 委員 異議なし
- 今回の委員会の議事は以上とし、事務局にお返ししたい。

## 8. その他

- 事務局 次回の委員会は8月31日（月）13時30分から行う。場所は第1回委

員会と同じくコミュニティプラザになります。6月29日までの意見集約は改めて文書等は出さないが、協力をお願いしたい。

## 9. 閉会

社会福祉協議会常務理事より